

技術委員会 2021年度活動報告

2022年6月6日(月)
紙製容器包装リサイクル推進協議会

2021年度 技術委員会の主な活動

紙製容器包装の排出量・回収量に係わる調査

1. 組成分析・市区ヒアリング調査

1) 組成分析調査

⇒ 新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から中止

2) ヒアリング; 秦野市、川崎市、さいたま市

2. マテリアルフロー(2020年度実績)の 作成

紙製容器包装の回収率の出し方

$$\text{紙製容器包装の回収率} = \frac{\text{紙製容器包装の回収量(B)}}{\text{全国の家庭から排出される紙製容器包装の総量(A)}}$$

A 全国の家庭から排出される

紙製容器包装の総量 : モニター調査

B 紙製容器包装の回収量 = 各分類の回収量(D)

× 各分類における紙製容器包装の構成比(C)

(各分類:「紙製容器包装」「雑がみ」「雑誌・雑がみ」「古紙」)

C 各回収分類における紙製容器包装の

構成比調査 : 組成分析調査

D 各分類の回収量:アンケート調査(総務委員会)

各分類中の紙製容器包装の構成比

- 「雑誌・雑がみ」分類と「雑がみ」分類中の構成比は下表の数値を使用
- 各分類における紙製容器包装の構成比は数ヶ所の組成分析調査結果の平均値

	項目	紙製容器包装 構成比平均値	構成比適応年度	調査自治体	調査時期
行政収集	雑誌・雑がみ	12.9% (9市平均)	2017年度	9市(東京、千葉、埼玉、四国九州)	2010～2015年度
	雑がみ	40.4% (5市平均)	2017年度	5市(神奈川、静岡、北海道)	2006～2014年度
集団回収	雑誌・雑がみ	10.5% (5市平均)	2010年度	5市(東京、神奈川、千葉、埼玉、宮城)	2009～2010年度
	雑がみ	42.8% (5市平均)	2010年度	5市(神奈川、千葉、山形、静岡)	2008～2010年度

市区ヒアリング調査

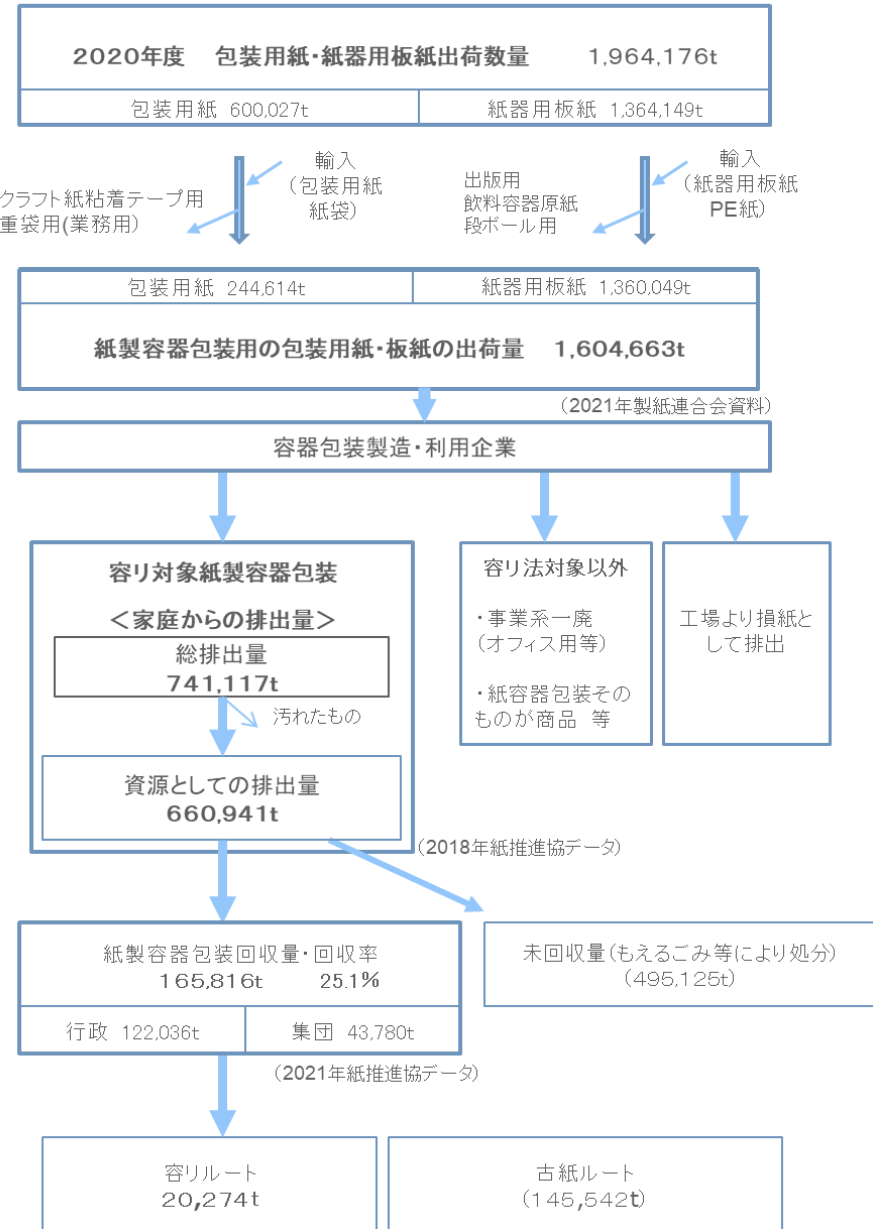
調査結果

		H市（神奈川県）	K市（神奈川県）	S市（埼玉県）
回収方式		古紙ルート	古紙ルート	古紙ルート
分類名		「その他の紙」	「ミックスペーパー」	「その他の紙」
混合回収量		行政 421 t 集団 7 t	行政 10,562 t 集団 36 t	行政 10,356 t 集団 1,389 t
分別収集	分別対象	雑がみ	雑がみ	雑誌・雑がみ
	対象外	汚れ・臭いの取れないもの、シール、写真など	汚れ・臭いの取れないもの	臭いのついたもの、感熱紙、カーボン紙、圧着はがき、写真、シール、銀紙（箔押し）、紙コップ（防水加工）、汚れのひどいもの
排出方法		識別マークでの回収を明記しており、「その他の紙」として紐で束ねるか、紙袋に入れて出す。	識別マークでの回収を明記しており、「ミックスペーパー」として回収（「新聞」、「雑誌」、「段ボール」、「牛乳パック」などは、集団回収）。	識別マークで分類せず、紐で束ねるか紙袋に入れて出す。排出時は、「雑誌」、「その他の紙」で分類されているが、処理では一緒にされている。
識別マーク関連 意見交換・他	紙製容器包装の回収の取組	古紙業者が各地区に毎週1回直接収集しており、複合素材（アルミ付き含む）も一緒に回収している。段ボールを除き、回収は平ボディ車。	業者は一社のみにて委託しており、パッカー車で回収（他の「新聞」等の紙類は全て平ボディ車）。	4業者（旧4市区）での分担を継続している状況。回収は平ボディ車（段ボールの一部がパッカー車）。
	区別表示設定に対する意見 その他の課題等	「紙箱」から回収をスタートして、2017年に現在の「その他の紙」分類に移行。焼却炉の老朽化のため、焼却ごみ中の資源化可能物の抽出が課題である。	「ミックスペーパー」の分別率（総量中の資源化量）が30%程度に低下しており（当初は35%程度）、埋立地の延命化と併せて課題となっている。	市区が合併して20年経過、収集の定着しており、課題やトラブル等はない。人口が微増であることも回収量増加の要因か。

マテリアルフローの作成

紙製容器包装の**排出量**と**回収量**を把握し、その他のデータと組み合わせて、紙製容器包装の**マテリアルフロー**（2020年度実績）を作成。

2020年度 紙製容器包装のマテリアルフロー



技術委員会 2021年度活動報告

完